CITP フォーラムの活動

～社会に求められる高度IT人材像と CITP の活動の方向性～

平林　元明
情報処理学会 CITP フォーラム 代表

超スマート社会を実現するという国家的取組が始まっている。超スマート社会を実現するためには、それを担う実践的 IT 人材が必要となる。情報処理学会の認定情報技術者（CITP：Certified IT Professional）制度によって認証された実践的 IT 人材とはどのような人材なのか。本論では、社会に求められるその人材像を俯瞰するとともに、CITP のコミュニティである CITP フォーラムの活動内容を紹介する。CITP フォーラムでは、5 つの専門部会（SIG）と 3 つの委員会を設置し、社会貢献活動、人材育成活動、社会提言などを行っている。これらの活動を実践し、運営してきた経緯や課題対応についても述べる。

Ⅰ　社会に求められる人材像

1．IT 人材が求められる社会

今から 10 年前、次世代電子行政サービスという構想[1]があった。これは政府のシステムを横連携していくというものであるが、今のマイナンバーシステム[2]に繋がっている。完成したのは昨年であるが、構想から 9 年掛っている。そして今度は Society 5.0[3]が進められている。超スマート社会を実現するという構想で、官民のサービスの連携をしていくものである。このためデータ公開やサービスの API 化などもしていく予定となっている。このような IT 化は世界全体としての流れであり、社会インフラのデジタル化が進み、AI やロボット、IoT といった技術を使いこなす人材がますます必要になってきているのが現状である。

■ 次世代電子行政サービス　⇒マイナンバシステム
「次世代電子行政サービスの実現に向けたグランドデザイン（平成20年6月4日）」

超スマート社会へ

■ 日本政府がIT技術を活用し「Society 5.0」の推進を宣言
- サイバー空間とフィジカル空間（現実社会）が高度に融合した「超スマート社会」を未来の姿として共有し、その実現に向けた一連の取組を「Society 5.0」とし、更に深化させつつ強力に推進
- 公共-民間サービスの連携、オープンデータ・バイ・デザイン、行政データ・サービスのAPI化

「内閣府第5期科学技術基本計画より（平成２８年１月２２日）」

■ 技術革新による産業社会インフラのデジタル化
- 人工知能AI　ディープラーニングなどの革新技術
- ロボットの実用化　工業用ロボット、人型ロボット
- IoTによるビジネスイノベーション
- ドローンや自動運転による活動空間の拡大
- ブロックチェーンによる金融革新
- 公共分野ではオープンデータ・公共サービス連携など

2．IoT・AI 技術を活用したフォーメーション

今まではユーザ企業が発注したシステムを IT 企業が作るというのが日本では一般的であったが、IPA(独立行政法人 情報処理推進機構)の人材白書[4]には、ユーザ企業と IT 企業が協働してサービスを創る時代に変わってくると謳われている。IT 人材も単に IT の専門家としてだけでなく、エンドユーザに対するサービスの価値を意識したシステム開発をしないといけない時代になってきている。

●受発注の関係から協働・協創の関係へ

●システムを作るからサービスを創る時代へ

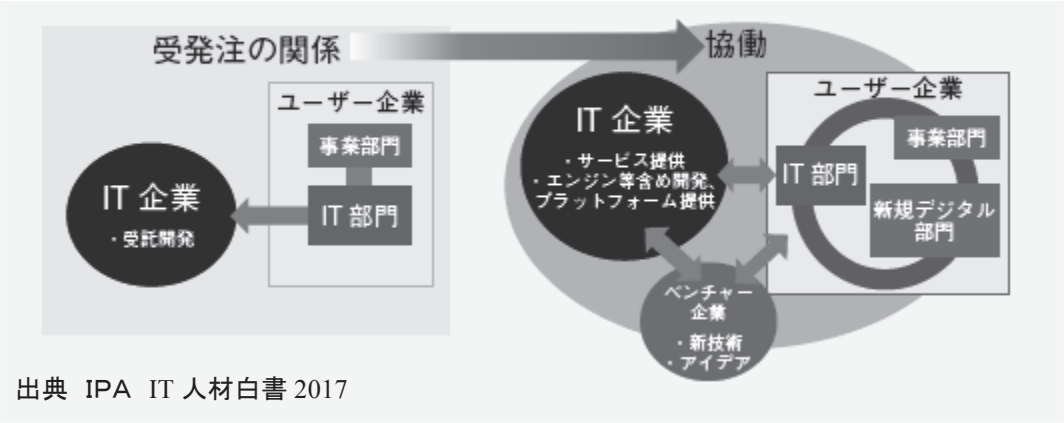


図 1 デジタル化によるユーザ企業と IT 企業の関係性の変化

3．IoT やビッグデータ・AI に携わる人材の育成・獲得・確保方法

IoT やビッグデータ・AI に携わる人材をどのように確保するかというアンケート調査結果がある。1 番目は社内の人材を再教育するというもの、2 番目は外部人材の中途採用となっている。つまり AI で仕事がなくなると言われているが、変化に対応できる人材や専門分野を持つ人材が生き残っていくということを物語っている。

1 位　社内の人材を再教育
2 位　外部人材の中途採用
3 位　新卒の育成や他社の活用

⇒

求められる人材
・変化に対応する人材
・専門分野を持つ人材

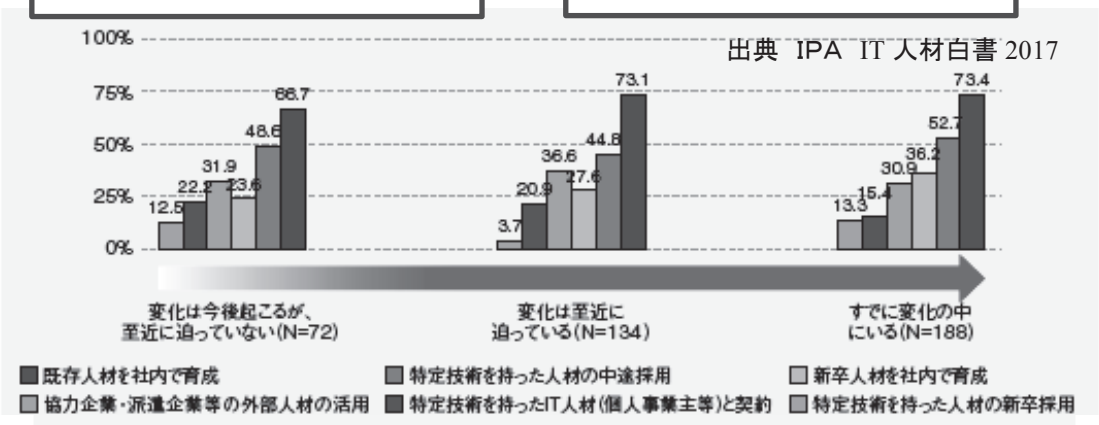
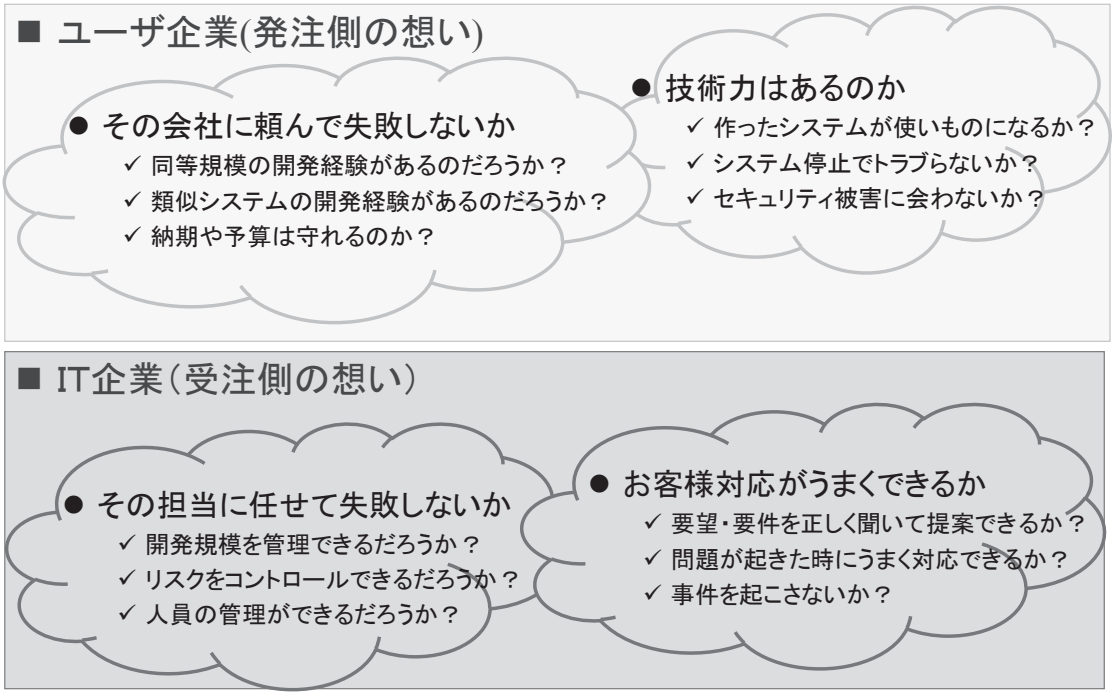


図 2 IT 企業の IoT やビッグデータ、AI 等に携わる人材の育成、獲得、確保

４．人財に対する期待

日本では欧米に比べ IT 技術者が IT 企業に集中し、ユーザ企業に少ない傾向がある。ユーザ企業と IT 企業は受発注の関係にあるわけであるが、双方の期待は人材の経験と企業の信頼にある。つまり実行力があるかどうかが採用のポイントになる。



５．求められる行動特性

高度 IT 人材に求められる行動特性をまとめると「**５つの力と３つの価値**」に整理することができる。これらの行動特性はシステムに求められる要件を正しく理解し、チームの総力を結集し、必要なタイミングでシステムをリリースするために必要なものである。

① 実行力　実績を残す実行力
② 判断力　完遂に導く使命感と判断力
③ 予測力　課題やリスクに対応する予測力
④ 適用力　スキルを生かす適用力
⑤ 管理力　部下を育成・指導する管理力
⑥ 自分の価値　を認識したプロジェクトへの貢献と責任感
⑦ 顧客の価値　を認識した顧客対応力
⑧ 社会の価値　を認識したプロフェッショナルとしての自覚
⑨ コミュニケーション力　理解する・伝わる・意欲がある
⑩ 職業倫理 信頼できる

６．IT 技術者の方向性

社会の将来の方向性、将来の新しい技術を担う人材、企業で求められる人材や行動特性など、高度 IT 技術者の向かうべき方向性をまとめると以下のようになるであろう。

- **高度な技術を使いこなせる人材に**
  - **IT を作るから IT を使いこなす　⇒IT は体の一部**
  - **IT そのものの知識は当然　⇒IT による価値創造へ**
  - **より上位のレベルを目指す　⇒高度 IT 人材**
- **これから社会で求められる人材**
  - **IT 技術力（実行力のある人）　⇒CITP**
  - **IT を活用した新しい技術　⇒人工知能など**
  - **社会的価値の創造　⇒ビジネスモデル**

CITP とは「実行力のある高度 IT 人材」を認証された人材である。この技術力を生かし、新しい技術を活用して、社会が必要とする価値を創造することによって、その力を発揮することができるであろう。

技術力×活用力×創造力

II　CITP フォーラム 活動状況

この章では、CITP フォーラムの活動状況を紹介する。

1．CITP フォーラム 活動状況

CITP フォーラムの活動拠点および活動実績は次のようになる。

- 2014 年末活動開始
  2018 年 3 月までに定例会　20 回　(2 ヶ月に 1 回)
- 活動拠点
  東京・神奈川地区、名古屋地区、大阪地区
- 合宿
  湯河原(2016 年)、石巻シビックテック(2017 年)
- 分科会
  定例会の他、専門部会や個別チーム会合多数
- 情報発信・共有・コミュニケーション
  ホームページ、メーリングリスト、掲示板、FIT、全国大会、ワークショップ、アニュアルレポートを発行（2016 年度は約 70 ページ）、外部委員会参加、社会提言、政府パブコメ、政府 CIO 補佐官との意見交換　等

2．CITP コミュニティの構成

CITP フォーラムは情報処理学会の IT フォーラムのひとつであるが、CITP 自身による自主運営組織として CITP コミュニティを運営している。[5][6]

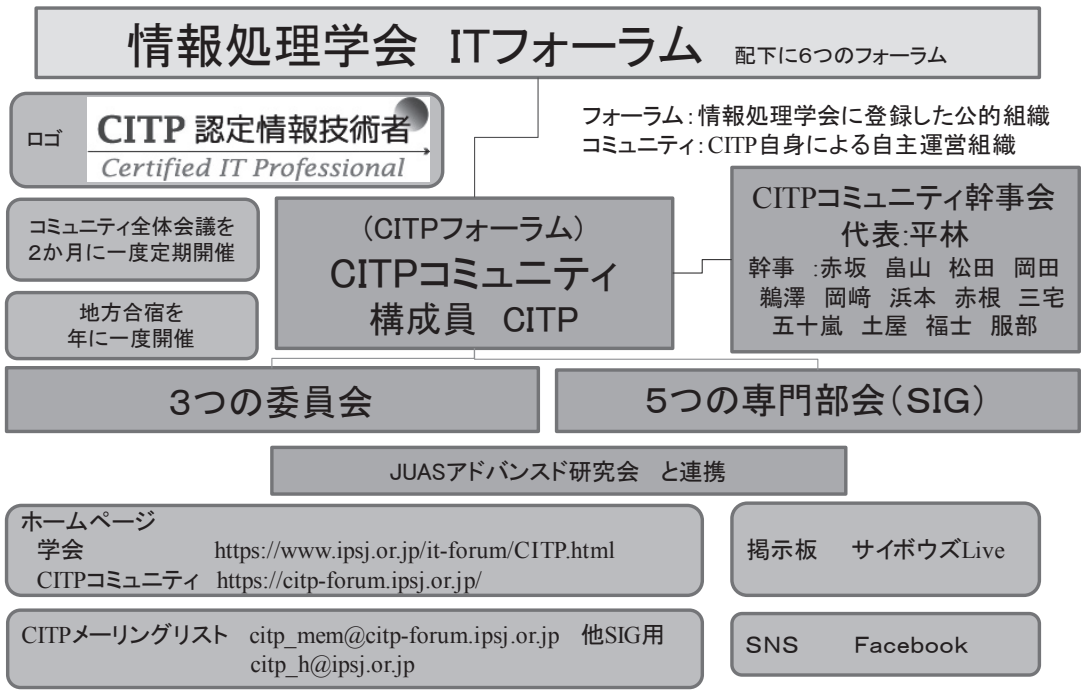


図 3 CITP コミュニティの構成

３．CITP コミュニティの構成

（１）CITP コミュニティの全体フレーム

CITP コミュニティはコミュニティの運営を行う幹事会、技術者の交流を行う定例会、有志による特別活動を行う専門部会から構成される。

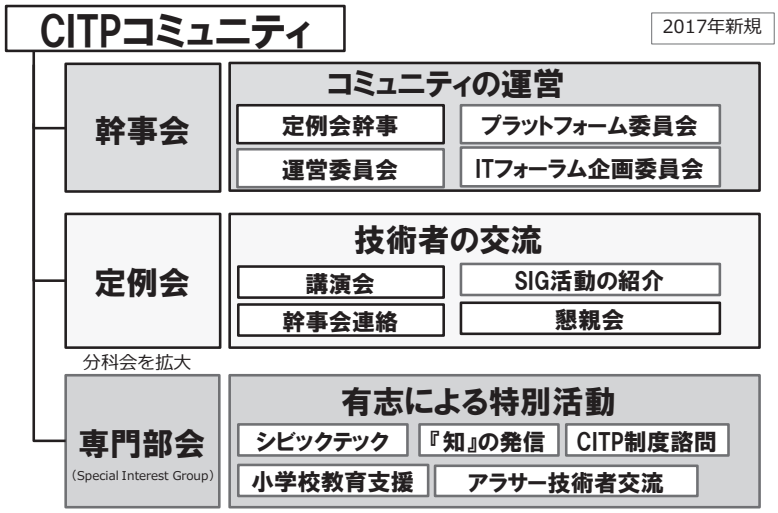


図 4 CITP コミュニティの全体フレーム

（２）幹事会　-コミュニティの運営-

幹事会は、意思決定を行う組織であり、委員会などから構成される。

	活動概要	委員長	メンバー（※：賛助会員）
幹事会	コミュニティの運営全般に関する意思決定	幹事会は新しい幹事を適宜募集・選任することができる	
幹事会 定例会 担当幹事	・幹事会・定例会の開催日時、議題（講演会含む）、ｽｹｼﾞｭｰﾙの決定と場所の確保 ・幹事会・定例会の司会進行	開催場所を提供できる幹事で持ち回り	
運営 委員会	CITP コミュニティの運営に関する企画・改善検討	松田 （中電シーティーアイ）	森田（NRI） 服部（NEC） 旭※（情報処理学会）
プラットフォーム 委員会	ホームページ、メーリングリスト等コミュニティの連絡および広報の IT インフラの構築・運営	岡田（NEC）	赤根 （デジタルフィールド） 森田（NRI）
IT フォーラム 企画 委員会	情報処理学会 IT フォーラム（ソフトウェアジャパン、全国大会等）に関する企画・運営	平林（日立）	三宅 （NEC ソリューションイノベータ） 福士（LAC） 松田(中電 CTI) 林※（情報処理学会） 旭※（情報処理学会）

（３）コミュニティ会議(定例会)　-技術者の交流-

コミュニティ会議(定例会)は CITP 全員を対象とした集まりで、定例議題などの他に講演会や専門部会の報告などを開催している。

	活動概要	委員長	メンバー（※：賛助会員）
講演会	CITP や産・学・官の有識者/キーマンによる講演会	開催場所を提供できる幹事で持ち回り	
幹事会連絡	幹事会で議論・決定した内容を必要に応じて説明	開催場所を提供できる幹事で持ち回り	
SIG 活動の紹介	専門部会の活動状況の報告(必要に応じて)	SIG 部会長	SIG メンバー
懇親会	コミュニティメンバー、賛助会員、ゲスト等による懇親会	開催場所を提供できる幹事で持ち回り	

（４）専門部会（SIG）　-有志による特別活動-

有志による特別活動で、CITP なら誰でも参加でき、自分の関心のあるテーマで新しい部会の設立も提案できる。また、部会長が認めれば CITP 以外も参加できる。

	活動概要	部会長	メンバー　（※：賛助会員）
シビックテック	IT を活用し、被災地をはじめとする地域社会の課題解決に取り組む	赤坂（日本 IBM）	土屋（ハイマックス） 鵜澤（日立） 三宅(NEC ソリューションイノベータ) 福士（LAC）他
小学校教育支援	小学校のプログラミング教育における CITP の活用を検討	五十嵐（NRI）、（赤根　部会長代理）	赤根 (デジタルフィールド) 松田、青木、宮下 (中電シーティーアイ)他
『知』の発信	CITP が持つノウハウや活動成果を『知』としてまとめ、エッセイや論文などで公開・発信する	松田 (中電シーティーアイ)	岡崎 (住友電工情報システム) 赤根 (デジタルフィールド) 井川（NEC）、 久保、宮下、豊田 (中電シーティーアイ)他
アラサー技術者交流	若手（30～40 代）CITP 同士の交流	服部（NEC）	森田（NRI） 鵜澤（日立）他
CITP 制度諮問	CITP 制度に関する改善点・要望やレベル５認証等に関して情報処理学会に諮問する	平林（日立）	林※（情報処理学会） 旭※（情報処理学会）

４．専門部会の紹介

（１）シビックテック専門部会

IT を活用し、被災地をはじめとする地域社会の課題解決に取り組む部会。

コーディネータ：　日本 IBM　赤坂　亮　／　ハイマックス　土屋 俊樹

2017 年度は下記シンポジウムを開催した。

CITPシンポジウム

ITを活用した新たな社会価値の創造

主催：一般社団法人情報処理学会CITPフォーラム
協力：一般社団法人情報処理学会 東北支部

日時 :2017年10月27日（金）14:00-17:30
会場：石巻専修大学 ５号館５３０２ （入場 13:30)

プログラム

・高度IT資格"CITP"とコミュニティ活動（平林）	14:00-14:15
・AI（人工知能）を活用した社会価値の創造事例（赤坂）	14:15-14:45
・シビックテックによる価値貢献を考える （土屋）	14:45-15:05
・シビックテック ワークショップ	15:10-17:30

一般社団法人 情報処理学会CITPフォーラム

（２）「知の発信」専門部会

CITP が持つノウハウや活動成果を『知』としてまとめ、エッセイや論文などで公開・発信する部会である。

① 定例会での発表や企業間コミュニティの交流

- 第 19 回 CITP コミュニティ inNAGOYA（H29.12.6 定例会）では日立製作所 HPM プロフェッショナルコミュニティと中電シーティーアイ CITP コミュニティの活動を紹介
- 活動成果の発表
  - 夏休みの宿題でプログラミングをやらせてみた

    株式会社中電シーティーアイ　宮下修
  - 中国のインターネット事情

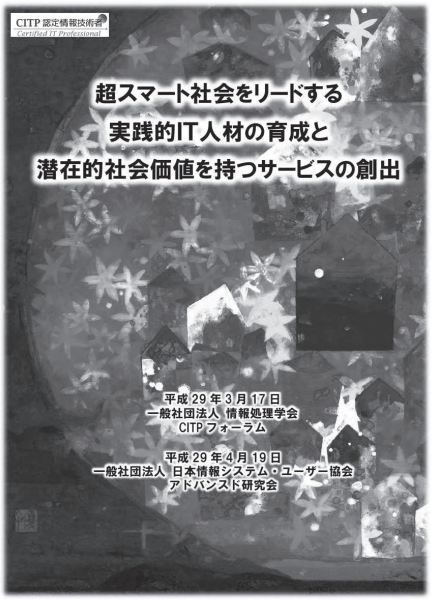
    株式会社中電シーティーアイ　久保壮一郎
  - 合格者が作る「認定情報技術者(個人認証)申請の手引き」

    住友電工情報システム株式会社　岡﨑四郎

② アニュアルレポートの発行

- 2016 年のコミュニティ分科会（IT 人材育成分科会、社会価値創造分科会）の活動成果を論文集「超スマート社会をリードする実践的ＩＴ人材の育成と潜在的社会価値を持つサービスの創出」にまとめ発行した。

■ アニュアルレポート　全 71 ページ



【IT 人材育成分科会/JUAS 実践的IT人材の評価・育成研究会】

①CITP 制度を活用した高度 IT 人材の育成

～超スマート社会を支える実践的技術者育成～

中電シーティーアイ　松田信之

②ソフトバンク（IT 統括）の人財育成について

ソフトバンク　鈴木忠之

③人工知能時代の IT 人材育成

デジタルフィールド　赤根大吾

④小学校段階におけるプログラミング教育と CITP との連携

株式会社野村総合研究所　五十嵐智生

⑤人財能力を実務ベースで可視化する

住友電工情報システム株式会社　岡崎四郎

【社会価値創造分科会/JUAS 潜在的ニーズを持つサービスの社会価値創出の研究会】

⑥CITP による社会価値創造の取組み

日本 IBM（株）　赤坂亮

⑦日本を元気にする攻めの IT

-組み合わせ型のビジネス課題解決-

中電シーティーアイ　荒木岳文

⑧映画鑑賞における視覚障碍者の QoL（Qualityof Life）

日本電気株式会社　岡田克彦

⑨初中級プロマネのための現場で活かせ！統計情報

ハイマックス　土屋俊樹

■ 合格者が作る「認定情報技術者(個人認証)申請の手引き」全 23 ページ

第 1 章　IT 技術者のスキル・能力を

どのように可視化するの？

第2章　申請書の書き方のポイントは？

提出書類の概要と作成順

業務経歴書

認定情報技術者申請書

主要業務・研修・プロフェッショナル貢献の記録

達成度指標チェックシート

スキル熟達度チェックシート

第3章　合格者からのアドバイス

（３）小学校教育支援専門部会

小学校のプログラミング教育における CITP の活用を検討する専門部会である。パブリックコメントを発信した。

ALT(外国語指導助手)制度を参考に民間の現役 SE や退職者 SE などをプログラミング教育助手（TA）として全国の小学校に派遣することを提案

「学校教育法施行規則の一部を改正する省令案並びに幼稚園教育要領案、小学校学習指導要領案及び中学校学習指導要領案」に関する意見

文部科学省初等中等教育局教育課程課 御中　2017 年 3 月 15 日　一般社団法人　情報処理学会

意見：

情報処理学会では、IT スキル標準レベル 4 以上の上級技術者を対象に IT スキル標準で定められたスキル評価方法に基づき、所定のレベルに相当する能力を有すると判定された技術者を「認定情報技術者（CITP)」として認証する制度を実施しています。現在 6,000 名を超える技術者が CITP に認定されています。この度、プログラミング教育が義務化されることが小学校学習指導要領案で明示されたことは、情報リテラシーの裾野を広げるという意味で大変評価しています。情報教育を伴う今次改定に、CITP が有志を募り、民間人として小学生のプログラミング教育に貢献ができないか、ワーキンググループを作り具体策を検討しています。

小学校学習指導要領案を拝見しましたが、算数と理科に関しては、具体的な一方で、算数と理科以外の科目に関しては、「指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用して、情報の収集・整理や、実践結果の発表などを行うことができるように工夫すること」としか記載がなく、今次改定で示されているプログラミング的思考の教育を、小学校現場の創意工夫だけで進めることは無理がある印象を受けました。また、小学校教諭は担当する教科が幅広いことに加え、英語の教科化に伴う負担増などを考慮すると、教科化されていないプログラミング教育を同時に進めなければならない教諭の負担が大きすぎると認識しています。

CITP 有志は、検討を進める中で、外国語指導助手（ALT）制度のプログラミング教育版を整備することができないかと考えています。ALT 制度を参考に自治体国際化協会に準じたプログラミング教育の受け皿を設けることで、民間の現役 SE や退職者 SE などを訓練し、プログラミング教育助手（TA）として全国の小学校に派遣できないかを考えています。今回の答申では、プログラミング教育の実現化のために、国、教育委員会、小学校現場、関係団体、民間や学術機関が連携すると記載されています。私たちは、民間や学術機関の一員として、今次改定の実現を望んでいます。小学生のプログラミング教育の円滑な実現のためにも、是非、具体的な推進に向けて、民間などの関係団体との連携もご検討下さい。

（４）アラサー技術者交流専門部会

若手（30～40 代）CITP 同士の交流をする専門部会である。

- ■ CITP メンバーが提供する、この活動だけの特別講演の開催
- ■ SIG メンバー同士の自発的なビジネスアイディア検討会
- ■ 講演／セミナー後の技術座談会開催＋懇親会

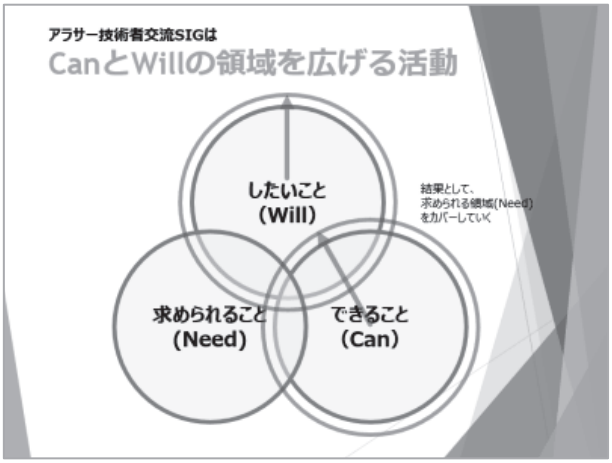


図 5 アラサー技術者交流専門部会の活動イメージ

（５）CITP 制度諮問専門部会

CITP 制度に関する改善点・要望やレベル５認証等に関して情報処理学会に諮問する。

■活動その１　CPD[7]登録の正しい書き方検討プロジェクト

- CITP の実際の活動例を収集した

  ⇒内容を精査し、分析した

- 正しい書き方を CITP 定例会議にフィードバック

  ⇒CITP 制度の委員会を通して CPD 申請案内にも反映された

取得日	開催地	証明書用タイトル	活動形態 活動内容	数量 単位表記	取得 単位
2016.3.28	情報大学(情報学部)	論文誌（情報学01）第99巻（2015年）; 事例分析に基づく情報システム開発のリスク対策方法; 担当分2ページ	[2-1] 業務上の成果を発信する活動 6-論文掲載（査読付き論文）	2ページ	60.0
2016.2.4	情報処理学会(一橋大学)	ソフトウエアジャパン2016; 人工知能は世の中をどう変えるか; Robot of Everything; オープン・サービス・イノベーションで加速するKNOWLEDGE INTEGRATION; 質問応答システムWatsonとその実用化; IoTビジネスの過去・現在・未来; パネル討論「人工知能は2020年の世界をどう変えるのか？」; 誰でも使える自然言語処理技術を目指して; 受賞スピーチ2	[1] 能力を磨く活動 2-集合研修（テスト、演習等なし）	4.8時間	4.8
2014.12.10	CITP コミュニティ(CD社/東京)	第1回CITPコミュニティ; 日本や社会全体のIT技術関連の問題についてディスカッションを行った	[1] 能力を磨く活動 3-見学会、ワークショップ、コミュニティ活動への参加	2時間	2.0
2015.4.13	AB社	特開2015-069999; 情報識別システム; 貢献3割	[2-1] 業務上の成果を発信する活動 24-技術的成果(特許　発明者に限る）公開時	0.3件	3.0
2014.11.6	情報処理学会(御茶ノ水)	実務家コミュニティイベント; システムの課題と実践	[2-1] 業務上の成果を発信する活動 4-研究会発表（登壇あり）	1.5時間	15.0

図 6 CPD(Continuing Professional Development)実績登録の正しい書き方の例

CPD 実績記入上の留意点　(一部抜粋)

- ✓ 社内研修など社外秘の内容の場合、CITP の資質向上にふさわしい内容であることがわかる注記を具体的内容に記載する。講演名などの一部を伏せ字(■)にしたものでもよい。エビデンスとしては上長等の確認資料または参加したことがわかる資料を準備すること。
- ✓ メンター・後進の指導など月単位の場合、対象日には月の最初の日付を登録する。登録できる活動は、新人指導 (報告書や日誌がある)、中堅のOJT指導(指導計画がある)、師弟関係にある指導者、などで、職制上の部下やプロジェクトチームの部下、など立場上の管理者による場合は含まない。また、具体的内容には指導した各人に対する指導概要を一人一行程度で記述すること。

・　・・

■活動その 2　CPD 対象範囲の見直しプロジェクト

- CITP の実際の活動例を分析し貢献活動を整理した

  ⇒所属する企業に対する貢献や社会に対する技術的貢献の他に、業務とは直接連動しない支援活動に対する CPD 登録の定義が無いことが判明した

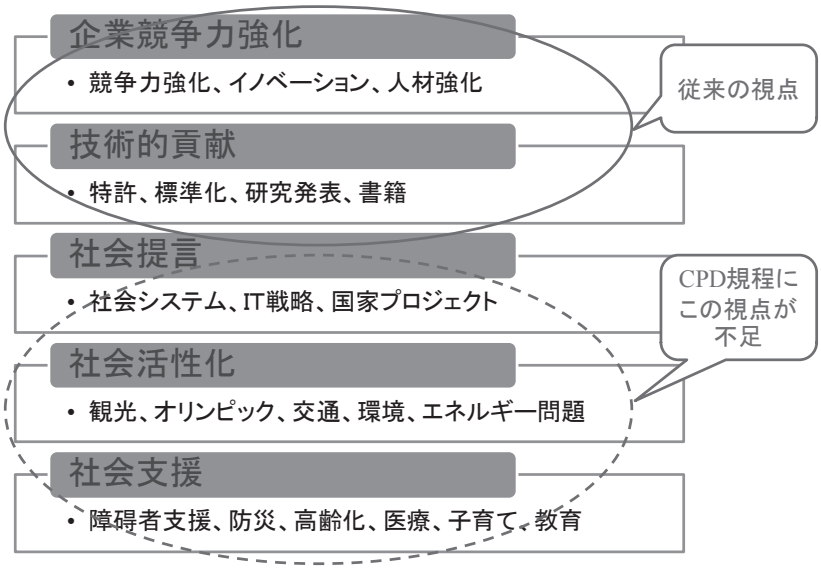


図 7 社会貢献の種類(CITP の活動スコープ)

- CPD 規程に追加すべき活動を委員会に提案

  ⇒CITP 制度の委員会を通して CPD 規程に反映された

CPD区分		実施形態・活動内容	ベース	重み	上限	注
① 能力を磨く活動	①	1-集合研修（テスト、演習等あり）	受講時間	2		A
		2-集合研修（テスト、演習等なし）		1		A, 1
		3-集合研修（見学会、ワークショップ、コミュニティ活動）	参加時間	1		
	⑧	4-自己学習(資格取得)	件	20		3
		5-自己学習(エビデンスが合格証などの場合)	履修時間	1	20/年	
		6-自己学習(エビデンスが自分でまとめた学習成果資料の場合)	ページ数	1	10/年	
②-1 業務上の成果を発信する活動	②	7-研究会発表（登壇あり）	発表時間	10		B, 1
		8-研究会発表（ポスタ）		2		B
	③	9-論文掲載（査読付き論文）	ページ	30		C, 2
		10-論文掲載（査読なし論文）		10		D, 1, 2
	④	11-著作（技術図書（原著）刊行）	ページ	10		2
		12-著作（技術図書（翻訳）刊行）		5		2
	⑤	13-研修会講師（社内；初回）	講演時間	3		
		14-研修会講師（社内；同一内容2回目以降）		2		
		15-研修会講師（メンター、後進の指導など；月単位）	人数×月	2		
	⑦	16-技術的成果(社内外での著しい技術的成果；単独/共同)	件	20		E, 2
		17-技術的成果(特許 発明者に限る；公開時)		10	20/年	2
		18-技術的成果(特許 発明者に限る；権利化時)		20		2
		19-技術的成果(組織内での技術的成果の共有；単独/共同)		10		2
		20-技術的成果(組織内の審査、査読)		5		F
②-2 社会貢献活動	⑤	21-研修会講師（社外；初回）	講演時間	3		G
		22-研修会講師（社外；同一内容2回目以降）		2		G
	⑥	23-公的団体への貢献(各種委員)	所要時間	3		H
		24-公的団体への貢献(国際、国内、業界標準の作成)		4		
		25-公的団体への貢献(裁判等での技術鑑定)		4		
		26-公的団体への貢献(JABEE審査)		3		
		27-公的団体への貢献(論文などの査読)	件数	10		
		28-公的団体への貢献(CITPの審査　個人認証)	審査件数	6		
		29-公的団体への貢献(CITPの審査　企業認定)	所要時間	3		
		30-公的団体への貢献(初中等教育における技術指導)	所要時間	2		
		31-公的活動への貢献(パブリックコメント)	件数	5		
		32-公的活動への貢献(ワークショップ、コミュニティ活動；資料提出あり)	参加時間	2		I
		33-公的活動への貢献(ワークショップ、コミュニティ活動；資料提出なし)	参加時間	1		I

業務外の自主的活動

パブコメ プロボノ等

（注）　プロボノ：プロによる社会貢献ボランティア活動

図 8 CPD 規程の改定内容

Ⅲ　今後に向けて

１．運営上の課題と対応

３年間の CITP フォーラムの活動を通して発生した運営上の課題に対して工夫した主なものを整理する。

■ 参加者をどのように増やすか
- 企業認定制度の無い会社は認定制度を作るのは大変なので、社外の制度を利用するメリットがある　－　会社として CITP 制度を推奨して申請を社員に促す
- 専門部会を増やし興味のある部会を作る　－　一般の技術者の取り込みを図る
- 幹事を増やすことで運営負担を分散
- 専用ホームページや個別メーリングリストの設置など PR の機会を増やす

■ 定例会議の場所の問題
- 各社持ち回りで開催し会議室を提供することで負担を分散

■ 予算の問題
- 会議室は各社提供
- 講演者は CITP を中心とし、外部講演者は人脈を活用

■ 実務で忙しい CITP
- 土日にやると会社会議室が使えない、旅費が自腹となるなど、孤立して会社から見えなくなるので、できるだけ会社の理解をもらう
- 幹事が忙しい時は相互バックアップ

■ ボランティアに関心がある人が参加する傾向
- プロボノも CPD カウント可能とし、モチベーションアップ

２．CITP フォーラムの実績評価

CITP フォーラムの設立目的に照らして３年間の活動を評価する。主なものとして、社会提言については、パブコメを発信している。教育人材育成活動については、石巻を始め教育関係機関との連携を始めている。学会以外の委員会活動や情報技術者の評価などはこれからという状況である。

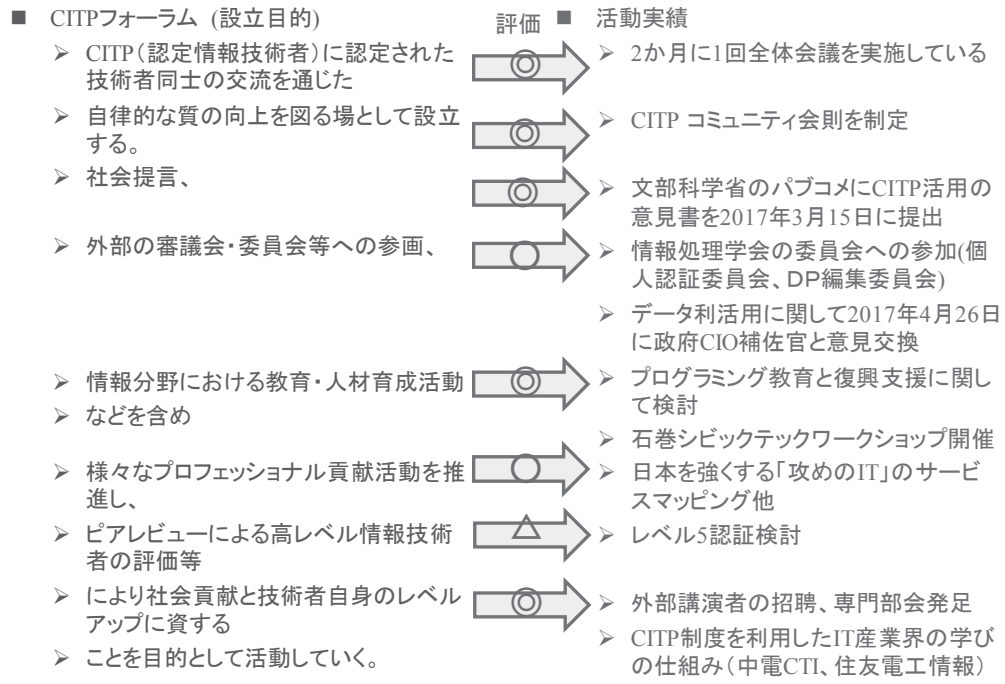


図 9 CITP フォーラムの実績評価

３．CITP 活動の方向性

本論の 1 章から 3 章までの視点・評価をまとめ、進むべき CITP 活動の今後の方向性を示す。

- ■ 社会に求められる人材像の視点

  技術力×活用力×創造力

  - ● CITP の専門分野を生かした勉強会
  - ● 社会貢献活動を生かした社外の知見と理解

- ■ CITP フォーラム 活動状況の視点
  - ● 認定者/参加者の増加
  - ● 専門部会の活性化
  - ● 一般の技術者の取り込み

- ■ 実績評価の視点
  - ● 対外的な連携の推進
  - ● より上位の技術者を目指す仕組み作り

【著者】平林　元明（ひらばやし　もとあき）
情報処理学会 CITP フォーラム 代表

（株）日立製作所で OS や運用管理ミドルウェアを開発。内閣府情報化参与 CIO 補佐官として政府情報システムの最適化を推進。CIO 補佐官連絡会議情報技術 WG リーダ、経済産業省文字情報基盤推進委員会、IPA TRM 検討 WG 主査、文字情報基盤運用検討 WG 委員長等の政府関連委員会に参画、静岡大学情報学部客員教授、JEITA IT サービス調達政策専門委員会委員長を経て、情報処理学会 CITP フォーラム代表。

参考文献

[1] 次世代電子行政サービスの実現に向けたグランドデザイン　2008 年 6 月 4 日
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/nextg/index_before090916.html#jisedai
[2] マイナンバーシステム　2016 年 12 月 5 日
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/senmon_bunka/detakatsuyokiban/kiseiseidokaikaku_dai2/siryou1_2.pdf
[3] 内閣府 第 5 期科学技術基本計画 Society 5.0　2016 年 1 月 22 日
http://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index5.html
[4] (独)情報処理推進機構 IT 人材白書 2017　2017 年 4 月 25 日
https://www.ipa.go.jp/jinzai/jigyou/about.html
[5] 学会ホームページ
https://www.ipsj.or.jp/it-forum/CITP.html
[6] CITP コミュニティ
https://citp-forum.ipsj.or.jp/
[7] CPD 規程
https://www.ipsj.or.jp/13CITP/CITP_CPD_kitei20170731v6a.pdf

以　上